



# 「私たち、我孫子ライフを満喫中！」

2021年に我孫子へ住み替えたファミリーを代表して、2人のママが登場。住み替えの理由や魅力をたっぷり語ってくれました。

2021年3月、港区から住み替え

## 家賃は1/3で、広さは2倍！ 「庭で念願の野菜づくりを始めました」

▶杉山佐保里さん(43歳)

管理栄養士。株式会社「食卓」の代表。対面料理教室に加え、2019年6月からオンラインで教室をスタート。夫、長女(小1)、長男(10カ月)の4人家族



『あびっこクラブ』のシステムが素晴らしい！と杉山さん。「子どもが通いたい時に通えて、夏休みも利用できるので助かっています」

アビスタで実施したハロウィンパンづくり教室

「我孫子に来る前は、麻布十番に10年程住んでいました。ある日、けやき坂のイルミネーションを見ても心が動かない自分に気づき、そこから自然のある街で暮らしたいと思うようになりました。我孫子は父が20年前から住んでいることと、夫が都内まで1時間ちょっとで通勤できるのがポイントです。一戸建てに住み替えましたが、以前に比べて家賃1/3で、広さは2倍に！庭ですずっとやりたかった野菜づくりを始めました。近所の人から『子どもの元気な声が聞こえてうれしい』と歓迎してもらい、住み替えて良かったと思っています」



### 移住前の印象

「自然があり、都内までの交通の便も良い。丁度いいバランスの街」



### 移住後の印象

「空が広く、手賀大橋やアビスタの屋上から見る夕日は感動もの。野菜は鮮度が良く、都内の半額で買えることに驚きました」

2021年3月、世田谷区から住み替え

## 歩いて、手賀沼のアクティビティへ 「水辺の街」で、毎日が豊かに」

▶野中真規子さん(47歳)

ライフスタイル、ビジネスなどの分野で記事監修や制作を行うフリーランスのライター。占いや片付けアドバイスの仕事も。夫、長男(中1)、次男(小2)の4人家族



長男が中学へ進学するタイミングで住み替えた野中さん。「子どもがもっと小さいうちに引越せばよかった」

家族でSUPに挑戦。友人らと総勢20人で体験したことも

「私も夫も、自然の多い場所に住みたいと思っていました。世田谷も公園に行けば緑はありますが、思い立ったらすぐ行ける水辺や森林のある環境が理想。今の住まいは窓から手賀沼が見える絶好のロケーションで、物件を見て即決でした。アウトドアが趣味なので、『五本松公園』や『利根川ゆうゆう公園』はよく利用します。夫は1人でデイキャンプに行くこともあるくらい。私は香取神社の朝市に、縁あって占いブースを出店する機会に恵まれました。我孫子には市民同士が繋がりが、活躍できる場がたくさんありますね」



### 住み替えで重視したことは？

- 都内までのアクセス  
「常磐線やつくばエクスプレス沿線で探しました」
- 自然(特に水辺)に近いこと  
「夫は海の近く、私も水辺のある場所で暮らすことが夢でした」
- 以前よりも広い家  
「家賃2/3で、広さは1.5倍になり大満足です」

注目!

我孫子市



ゆとりを実感！“あびこ”のこちよ暮らしについて  
星野市長が教えてくださいました

### 街のシンボル手賀沼公園をはじめ、緑の多い街

我孫子市は都心への好アクセスに加え、快適なテレワークにも丁度いい、ゆとりとした理想のマイホームを家計に無理なく実現できるのが魅力です。市内は緑が多く、住民1人当たりの公園面積が東京23区平均の約4倍(中面参照)あり、街のシンボル手賀沼公園にはキッチンカーが並び、休日は多くの親子連れで賑わいます。

都内から住み替えたご家族の食卓には、朝市で買い求めた市内農家の朝採り野菜が彩りを添えているそうで、日々食の豊かさを実感すると嬉しい感想を伺いました。雄大な手賀沼の風景は四季折々に素晴らしく、疲れた心を癒やしてくれます。皆さんも「物語の生まれるまち あびこ」で家計に、気持ちに、ゆとりの生まれるこちよ暮らしを始めませんか。多くのご家族に笑顔の思い出を紡いで欲しいと願っています。



星野順一郎市長

物語の  
生まれるまち  
あびこ

〈発行〉2022年2月  
(2019年9月改訂版)  
〈発行者〉  
我孫子市 総務部 秘書広報課  
あびこの魅力発信室  
☎04-7185-2493  
〈企画・制作〉  
サンケイリビング新聞社